

# MerCure

2017.6.7

創刊準備・最終巻／第12号「人間の手」

vol.0-12

『MerCure』創刊準備号は1年の間、試行を続けながら未来の姿を模索してきました。今号をもって最終巻となり、秋口より新しくスタートいたします。ご案内のチラシを是非、ご参照くださるよう。

\*

シュタイナーの最も素晴らしい業績のひとつに、イタ・ヴェークマン医師との協働作業があげられます。リズムカルマッサージセラピーは、1920年代から研究がはじめられました。後にマルガレーテ・ハウシュカ医師も加わり、薬剤の研究や開発と共に治療の分野に新たなひかりが齎されました。今号は「人間の手」をテーマに、療法士として活動をはじめられた二宮知子さんに「リズムカルマッサージ療法」についてご寄稿いただきました。

## ヴェークマン／ハウシュカによるリズムカルマッサージ療法 —極性を巡る旅—

問：どのようにすれば手技の練習を内的に深められるのですか？

答：これについては以下のシュタイナー博士の瞑想の言葉が参考になるでしょう。

私は頭の中に温かい愛の力動を感じる。

私は心臓の中に光り輝く思考の権能を感じる。

温かい愛の力動は、光り輝く思考の権能とひとつになる。

そこから私の両手は力強く、人間の良き働きになる。

私は私を感じる。

(エヴァ-マリー・バチュコ著リズムカルマッサージ実践ブックより／松本夏樹 訳)

### \*温かさ、リズム、呼吸

ルドルフ・シュタイナーが「自由の最も美しい象徴」と呼んだ「人間の手」を使って行うこの療法は、100年ほど前、シュタイナー博士とイタ・ヴェークマン医師がともに「聞き取った」アート（技／術）であり、後にマルガレーテ・ハウシュカ医師が参加し発展させた治療的なマッサージです。

圧迫するというよりは『吸い上げる』性質により、人間の液体組織をとおして「軽み」の諸力にインパルスを与え、重力からの解放を試みます。また人間の生命維持プロセスである「温かさ、リズム、呼吸」とともに働くことにより自己治癒力と免疫力を支えます。レムニスカート、円、螺旋などを用いる幾何学的な手の動きは、宇宙と地球のリズムをとおして自然界に存在する水や大気のリズムとつながり、「人の体に描くフォルメン線描、ふたつの手によるオイリュトミー」（受けてくださった方の感想）という表現も許されるでしょう。

一般的に、血行促進、毒素排出、心身の心地よいリラクゼーション、また調和と統合をもたらす効果で知られており、乳幼児、児童から年配の方まですべての方に受けていただくことができます。人が自分自身の身体とよりよい関係を持てるように助けることから、発達の問題、特に自閉症の治療にも用いられています。

具体的には喘息、狭心症、睡眠障害、動脈や静脈の問題、頭痛、脊椎やその他の筋骨格系の問題、リウマチや多発性硬化症など自己免疫疾患、鬱、依存症、摂食障害などへの適用で知られており、ターミナルケア、癌患者のケアにも使われます。

トレーニングコースでは約130時間の医学講座をとおして、病理学—健康と病気における人間についての理解を、従来西洋医学とアントロポゾフィ医学の両方の観点から深めることを試みました。また薬用植物研究、オイルや軟膏についての講義と実習、神智学や人智学的栄養学の講義、オイリュトミーを含む芸術活動をとおして、自分自身のケアの方法も含めて、セオリーの土台となる人智学の総合的な考え方と実践を、様々な角度から洞察しました。

#### \*心臓の仕草

「人間の無意識の経験を媒介する諸器官と、意識的な経験を媒介する諸器官との間にある関係性に注意を向けなさい。それがマッサージの意味全体を照らし出します。マッサージは何にもまして人間のリズムに影響をあたえ調節します。人間のリズムプロセスの調整がマッサージのおもな仕事です。」

(ルドルフ・シュタイナー「精神科学と医学」GA312 第16講)

わたしたちが健康でいられるのは、人間の胸部を主な活動の場としているリズムシステムが、上下2極(上:頭部に活動の中心を持つ『感覚-神経システム』/下:腹部や四肢にその活動の中心をもつ『四肢-代謝システム』)の間の均衡を絶え間なく調和に導いているおかげです。その極性はあらゆる場所に存在しますが、血液においても、代謝の側からは無意識の構築プロセスが、反対側からは意識的な活動に伴う分解プロセスが出会い融合します。心臓は血液を連続する大きな水滴へと区切り(収縮期)、一瞬止めて流れを遮り、その後再び解放します(拡張期)が、その一瞬の間に、心臓は個我によって集められた極性を感受し、可能な限り調和させています。そしてこのリズムがわたしたちに時間の感覚を与えます。血液は時間の流れの中で生命が永遠の変容の中へと流れ込み続けるところです。

「毛細血管の領域において、わたしたちの手は第二の心臓の役割を果たすことができる。」

(マルガレーテ・ハウシュカ)



リズムカルマッサージは「心臓の鼓動のリズムのニーディング」とも呼ばれるフォルムをもちいて、まさに心臓の「収縮systole」と「拡張diastole」の仕草で人間のリズムシステムに働きかけます。無心の観察によって両極に耳を澄まし、そこで触知したものを背後の宇宙におくる。そして背後から受け取ったものを目の前の人へともたす…いわば小宇宙と大宇宙をつなぐレムニスカーットの結び目のところに立ち位置をとりながら、背後の宇宙と目の前の人を繋ぐ媒体になろうとします。わたしはセラピー中の意識状態を、瞑想しているときやデッサンしているときのそれに似ていると感じます。エーテル的な存在を捉えるためには「空虚よりもさらに空虚な状態」を考へることが必要であるとシュタイナーはどこかで述べていました。自らを空の器—それを通して宇宙からの諸力が受け手の体に入るための—にするということ…。

またこのセラピーは芸術的な要素と緊密に結ばれています。正確な技術、基本フォルムとセオリーという基礎の彼方には柔軟で自由な世界が広がっています。基本の「色/音」から無限の「色彩/メロディー」を生みだし、それによって「タブロー/楽曲」を構成していくように、基本フォルムを主題としながらそれらを組み合わせ、

溶かし合わせて、受け手とのコラボレーションをとおして、即興的にしかし必然的なヴァリエーションを創造することが可能です。

#### \*治療教育とリズムカルマッサージ ～キャンプヒル共同体にて～

「世界にはただひとつの神殿がある。それは人間の体である。このいと高き形姿より聖なるものは何ひとつない。人間の前にかきずくことは、肉におけるこの啓示への敬意である。人が人間の体に触れるなら、彼は天に根差しであれ。」 (ノヴァーリス『断章』より/松本夏樹訳)

コースの途中から修了後の研修までの約1年間、メンター(英国コースディレクター:オニア・ランドウィアークック)の活動の場でもあるキャンプヒル共同体に住み、ディプロマ取得後は3ヶ月のインテンシヴな実習をさせていただきました。

共同体の中にあるシュタイナー学校の7歳から16歳までの生徒8人(軽い学習障害から重い自閉症まで)を担当しました。多くは困難な症例で「不安、拒絶、挑発、叫び、哄笑」の渦に巻き込まれ、気がつくとも触れることもせず「部屋の空気をマッサージしている」時もありました。それでも終了時には、クラス担任、保護者やハウスペアレントの方たちから「こどもたちのうれしい変化」についての思いがけない報告を聞くことができ、このような「新米」でさえもよい変化を生むことができるというこの療法の確かさを認識しました。時間外にも、何日も眠らず走り回っている少女を寝かしつけるために夜遅く呼ばれることもあるような忙しい毎日でしたが、スーパーヴァイザーの「見護り」のなかで、すべての異なる瞬間に対する試みを重ねていくとき、自分の精神マインドの中心がよりまっすぐに建てられるのを感じました。

特別な保護の必要なこどもたちとの時間の合間には、肌の色、信仰、年齢、体格、そして悩みも色々な10代から60代までの人々がセラピールームを訪れてくださいました。まだわたしが学生である時から練習台や症例研究の被験者に志願して下さった勇氣ある人々の中には、日々の共同生活の場では「共感することが難しい」人もいらっしやいましたが、セラピー中は無意識のうちに「客観的かつ厳肅にそして心からの愛と尊敬とともにその方の内奥に耳を傾けている」自分自身を発見し、それは驚きと共に希望に満たされた瞬間でした。

「魂の保護を必要とする子供たち」を中心に、身近な世話を担当するボランティアの若者たち、そしてその全体を温かく厳しく見護るハウスペアレント、教師、医師、看護師、各療法士の方々と共有する日々の生活、合唱やオイリュトミー、季節の行事や祈りの時間をとおして、シュタイナーの個別と普遍(個人と共同体)についての理想も徐々にわたしの中に浸透していきました。美しさの中には困難や課題もありましたが、数々の記憶がいっつも感謝の気持ちとともに蘇り、その「熱」はこれからもわたしの芯を支え続けてくれると思えます。

#### \*不思議な偶然

リズムカルマッサージを知る前、わたしは一表現者として、様々な場所でインスタレーションを展開していました。一貫していたテーマは『見えるものと見えないものの間』でした。昨年末、探し物をしていて古ぼけた箱を開け1枚の紙片を発掘しました(そもそも探していた物は今も見つからず…)。それは21世紀の初めに企画された展覧会「21世紀を刻む21人の時間」に出品した小さなオブジェ「手に触れることのできる光」のために書いたメモでした。

今読み返し、これがリズムカルマッサージをするときの気分を彷彿とさせることに驚き、ここに記します。

ものの数だけいくつもの時間がある  
光を凝視するうちに 見えてくる闇  
闇に心を澄ませるとき わたしのなかに灯る光  
空っぽになった肺が 新しい空気で満たされるように  
はじめたいとおもう。

(『呼吸と鼓動』2001年二宮知子)

## \*極性を巡る旅

「真の神秘主義の意味において精神を認識した者だけが、自然の中の事実を完全に理解できる」と、私はいおう。  
(ルドルフ・シュタイナー／西川隆範 訳)

この力強い言葉に励まされます。自分が今生でそこに到達できるとはとても思えませんが、絶えることなく生まれ続ける「謎」に対峙するときの謙虚さを失うことなく「問い」と共に旅をする、…受け手と響き合いながら精神の深みへとつながる小道をともに歩きつづけていくことが、わたしにとってのリズミカルマッサージ…といえるでしょうか。

ひとつの対話を始めるたびに、ひとつの手の動きごとに、極性を巡る旅が始まります。  
ときに短く、ときに遙か遠くへ・・・。

二宮知子 (ゲーテアヌム精神自由大学医学部門認定リズミカルマッサージ療法士／美術家)  
www.roomtau.comをご参照ください。

## (参考文献)

- “Rhythmical Massage AS INDICATED BY ITA WEGMAN,M.D.” -- Margarethe Hauschka,M.D.  
“Einführung in die Rhythmischen Einreibungen” -- Eva-Marie Batschko  
“Praxisbuch der Rhythmischen Massage nach Wegman / Hauschka” – Eva-Marie Batschko / Susanne Dengler  
“Geisteswissenschaft und Medizin“-- Rudolf Steiner  
“Sensitive Chaos” -- Theodor Schwenk  
『神秘主義 ヨーロッパ精神の底流』より「神殿の建設—ある神秘主義的イメージとその変遷」松本夏樹 著  
『神秘主義と現代の世界観』ルドルフ・シュタイナー著、西川隆範 訳  
『極性と超越 ヤコブ・ペーメによる錬金術的考察』南原 実 著



学芸研究室「Atelier」では、絵画療法や色光療法についても、施術を受けることができます。



Dr. Margarethe Hauschka (1896-1980)



Dr. Ita Wagman (1876-1945) Klinik Arlesheim



# Mercure Topics

## ☆庭づくり

- \*サンデック制作が一段落し、庭づくりの段階に入りました。土壌を植栽に適するように掘り起こしています。  
〈植物観察にふさわしい〉薬草や苗木の持参、植え込みなど、ガーデニングに是非ご協賛ください。
- \*ディープガーデンを自営される工藤さんは、シュタイナーを学ぶために海外留学の経験もある植木屋職人です。  
5月23～24日に樹木などを綺麗にしました。今後、傷んでいる竹柵をつくり変えていただく予定です。

## ☆メルキューレのオープンデー

- \*2017年7月2日(日曜日) 12時30分開場：参加費1500円(喫茶お菓子付) 予約は不要です。  
「パウル・シャッツの超立体」秘蔵フィルム上映／1:00～  
超立体をつくろう〈おどろくべき永遠に回転する立体〉ワークショップ／2:00～ 休憩／3:00～  
「ひびきの呼吸を感じる」〈アコーディオン演奏〉黒川晃一／4:00～ まとめの話／終了5:00

## ☆カシオペアの会／催しものご案内

- \*カシオペア楽市楽座公演その1「ニンナンナのおくりもの」於：烏山区民センター  
7月14日(金) 18時開場／開演18:30 (ご案内チラシを参照ください！)

## ☆社会芸術の会／松本夏樹

松本夏樹さんの講座「神秘主義の系譜」／7月23日(日)午後2:00～5:00 定員15名／要予約です。

## ☆射影幾何学の講座

丹羽敏雄さんによる「射影幾何学」講座＋ワークショップ：7月29日／11月開催。お問い合わせください、

## ☆小林直生氏の講座

- ・9月23日(土)～24日(日)：「アレキサンダー大王とサモトラケ島の秘儀」
- ・11月25日(土)～26日(日)：「東方の三博士の秘密」

## 名著紹介……ルドルフ・シュタイナー『治療教育講座』高橋巖 訳(1988年角川書店)

☆最晩年のシュタイナーの最も重要な講義録。本書は、治療教育の基本要点、本来の魂のいとなみ、知覚障碍と癲癇、ヒステリーの本質、硫黄過多と硫黄不足のこども、治療教育の実際など、1924年6月～7月にゲーテアヌムで行われた12回講座の記録である。全ての生命活動のみなもとに「両極性」があることを洞察。不健全のなかにも〈健全〉な魂が宿っている。健全健康、病気を問題とする前に、この極性がどのように人間の本質に内在しはたらいているかを問うている。イタ・ヴェークマン医師も講座に参加している。

☆「愛する皆さん、今日の時代状況の中で、もし私たちがもっと強い責任感をもつことができたなら、もっと多くのことがやれるでしょう。……問題の本質がどこにあるのかを知るときにのみ、責任感が強められ、良心的な態度が促進されます。」「私たちは常にいま為さねばならない事柄を行うのか、それともゆるがせにするのかの決断の前に立たされるでしょう。霊的な衝動に促されて生きるときには、毎日、毎時間、決断の前に立たされていると感じないわけにはいきません。」「……そういう時に大切なのは、目の前にある事実を直視することです。そして勇気を持って、ある瞬間だけではなく、持続して、〈私はできる〉という意識を持ち続けることが必要なのです。虚栄心を持たずに、それどころか自己犠牲な態度で、反抗する心を克服して、このことをただ感じるのではなく、繰り返し自分に言い聞かせるならば、皆さんは自分がどれほどの多くのことを成し遂げることができるか経験されるでしょう。」「現実のなかにはいり現実を把握したいという気分が重要です。」

----- ☆ ☆ ☆ -----

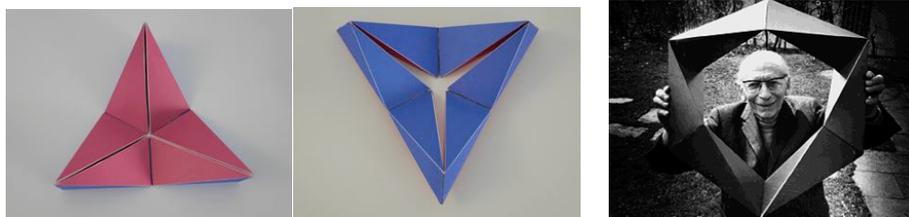
## Mercure vol.0-12 創刊準備・最終巻／第12号「人間の手」

発行日：2017年6月7日© 発行：学芸研究室☆メルキューレの会

発行所：〒152-0004 東京都目黒区鷹番1-14-16 TEL/FAX：03(3714)9850

E-mail:mercuregakugei@gmail.com <http://gakugei.jimdo.com/> (地図参照)

# ☆Open Day☆



## 「パウル・シャッツの超立体」7月2日(日) 12:30~17:00

- 12:30 開場
- 13:00 パウル・シャッツ／秘蔵フィルム上映会
- 14:00~15:00 超立方体をつくろう(ワークショップ) 型紙を準備します  
~休憩
- 16:00~16:30 ひびきの呼吸をかんじる(アコーディオン演奏) 黒川晃一  
~まとめのお話
- 17:00 終了

今回の「メルキュール・オープナー」は、パウル・シャッツの驚くべき世界を探访します。

パウル・シャッツ(Paul Shatz 1898-1979)はコンスタンスに生まれ、ミュンヘン工科大学で数学とメカニック工学、天文学を学びました。彫刻家としてアトリエを設立した後、1927年にドルナッハに移住。自然と調和する新しい技術の創造を目標とします。オロイドの骰子の発明により、革新的な攪拌のプロセスを齎し、汚染された水質の浄化においても多大な寄与を果たしました。

オロイドは世界中の薬剤や洗剤制作に用いられています。

- ☆パウル・シャッツの秘蔵フィルムの上映会は、午後1時スタートです。
- ☆ワークショップでは、シャッツの不思議な立体をつくります。  
必要なもの／定規、鋏、カッター、のり(こちらでも準備します。)
- ☆みなさま、お誘い合わせの上、是非お越しくださるようご案内いたします。

開始／12:30~17:00／終了 喫茶菓子付／参加費材料込み 1,500円

連絡／問い合わせ先：予約は特に必要ありません

Tel(当日12時より) 03-3714-9850

活動内容：Studio 講演会、研究会(20名位) Café スペース展示会 小さなショップ  
Atelier 療法室 (絵画造形、色光療法、リズムカルマッサージ他) 庭づくり  
学芸研究室☆Mercure：〒154-0004 目黒区鷹番 1-14-16 tel.03-3714-9850  
問い合わせ：学芸研究室 <mercuregakugei@gmail.com>